

最近の肥満患者の麻酔

大阪府済生会中津病院 麻酔科
岩倉 健夫

肥満患者の問題点

- ①気道の確保が難しい
- ②覚醒遅延や合併症が多い
(高血圧・高脂血症・糖尿病・睡眠時無呼吸など)
- ③皮膚損傷のリスクが高い
- ④静脈確保 硬膜外麻酔 腰椎麻酔
伝達麻酔が難しい

①気道の確保が難しい



気道確保は昔に比べかなり容易になった

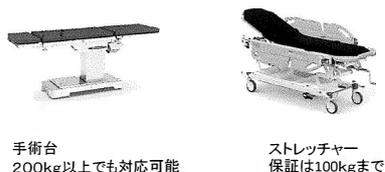
②覚醒遅延や合併症が多い



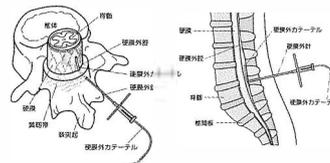
術後の筋弛緩残存の舌根沈下や麻薬による呼吸抑制が減り、昔に比べ覚醒遅延や合併症が激減

③皮膚損傷のリスクが高い

肥満患者では皮膚損傷のリスクが上がるため(特に頭低位)除圧に対応



④静脈確保 硬膜外麻酔 腰椎麻酔 伝達麻酔が難しい



刺しモノは昔とほとんど変わっていない
BMIが30を超えてくると難易度はかなり高くなる
血腫などの合併症が増える

結語

ここ10年前後の器械や薬の進歩により、呼吸抑制や舌根沈下のリスクは昔よりかなり減少し手術は安全になった。

しかし、皮膚損傷のリスクも高く、穿刺などの手技は難易度は高いままである。

麻酔科としては高度肥満は今もハイリスクと考えている。